

全道支部・部会代表者会議 春闘・総選挙勝利へ決意

1月18日に「全道支部・部会代表者会議」を開いて、7支部と鉄道本部から18人（オンラインをふくむ）が参加しました。森国委員長は「高市首相は党利党略・私利私略の解散・総選挙をしようとしているが、春闘方針を確認してたたかいを強めよう」とあいさつしました。宮澤書記長の提案にもとづいて、昨年の道大会以降のとりくみを交流し決意を固めあいました。（詳細は次号）

函館支部が「健康相談会」

道南郡部の8会場/9人が相談に

函館支部は1月6～7日に道南郡部の8会場（上ノ国・江差・森・八雲・福島・樺法華・恵山・戸井）で「健康相談会」を開きました。今年は知内町と木古内町にも新聞折り込みをし、電話相談と事務所での相談をふくめて相談者は9人でした。相談内容は、アスベスト疾患が1件、じん肺が3件、振動障害が8件、騒音性難聴が5件で、このうち6人（アスベスト・じん肺で4人、振動障害5人、騒音性難聴4人）の検査を予定しています。また、2月6～8日に函館市と北斗市の5会場でも相談会を開きます。

函館小型運送分会の燃料手当・年末一時金など

函館合同支部の函館小型運送分会は、燃料手当について世帯主は95,000円、準世帯主と独身者を同一区分として65,000円、嘱託社員（パートを含む）は5,000円アップの35,000円を獲得しました。年末一時金については「基本給の1か月分+40,000円」で、嘱託社員（パートを含む）は6,000円アップの97,000円です。なお、賃金についても春闘時の5,000円アップに加えて10月から6,000円引き上げられ、嘱託社員も10月から400円アップされて日額8,663円となりました。

JR北海道がダイヤ改正の修正提案

昨年12月10日と12日に、JR北海道から2026年3月14日に実施されるダイヤ修正提案がおこなわれました。今回の修正提案で大きな点は、道内を走る全ての特急列車から自由席が消えるのと、函館線の2駅（仁山・二股）が利用客の減少から廃止になる一方で、観光需要の高まりから札幌発ほしみ行の普通列車2本が小樽まで延長されます。室蘭行きの特急列車「すずらん12号」は特急「北斗」の混雑緩和のため発車時間が見直され、特急列車の全席指定化にあわせて「Sキップ」など往復割引きっぷがなくなり、特急定期券は「かよエール+（プラス）」となって価格は据え置きで指定席（券）の事前購入（無料）で利用ができます。駅の廃止について利用客や沿線自治体との話し合いで理解が得られたのかなど心配される点を意見交換し、インバウンド利用増加に対応する列車運行の見直しとともに、乗車マナーの周知を徹底し日常的に乗車されている皆さんに不快な思いをさせないことを求めました。3月のダイヤ修正で私の国鉄入社時から触れてきたキハ40が定期運行から消えることになります。新型車両への入れ替えは安全面や作業効率から必要なことですが、身近にいた車両の引退に寂しさを感じました。

【北海道鉄道本部・竹田吉宏】